

**永平寺町学校のあり方に関する
アンケート調査（小学校教員）
【結果報告書】**

令和3年6月

永平寺町

目 次

| | |
|-----------------------|---|
| I 調査の概要 | 1 |
| 1. 調査の目的 | 1 |
| 2. 調査概要 | 1 |
| 3. 報告書の見方 | 1 |
| | |
| II 調査の結果 | 2 |
| 1. あなたご自身について | 2 |
| 2. 小学校について | 3 |

I 調査の概要

1. 調査の目的

将来にわたって質の高い教育を提供できる社会の実現に向けて、町内の小学校のあり方を検討するための基礎資料として利用するとともに、今後の学校の運営・管理を進めるうえで参考とさせていただきますことを目的に、アンケート調査を実施しました。

2. 調査概要

- 調査対象 : 永平寺町の小学校教員 85 人を対象
- 抽出方法 : 悉皆調査
- 調査期間 : 令和3年1月
- 調査方法 : 学校を通じた配布によるアンケート調査

| ● 回収状況調査票 | 調査対象者数 (配布数) | 有効回収数 -無効票数(白票等)- | 有効回収率 |
|---------------------------|-----------------|----------------------|-------|
| 永平寺町学校のあり方に関する アンケート調査 | 85 | 84 -1- | 98.8% |

3. 報告書の見方

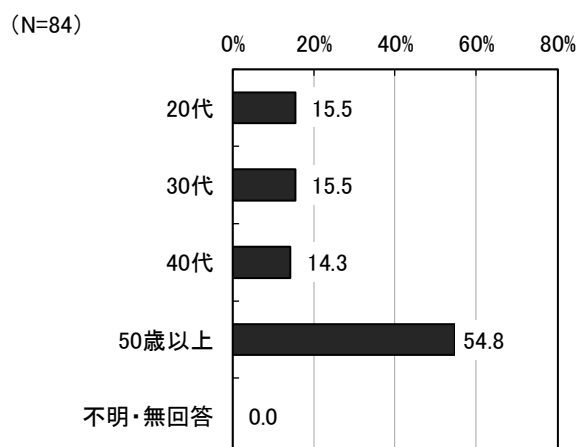
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- グラフおよび表のN数(number of case)、「サンプル数」は、有効標本数(集計対象者総数)を表しています。

II 調査の結果

1. あなたご自身について

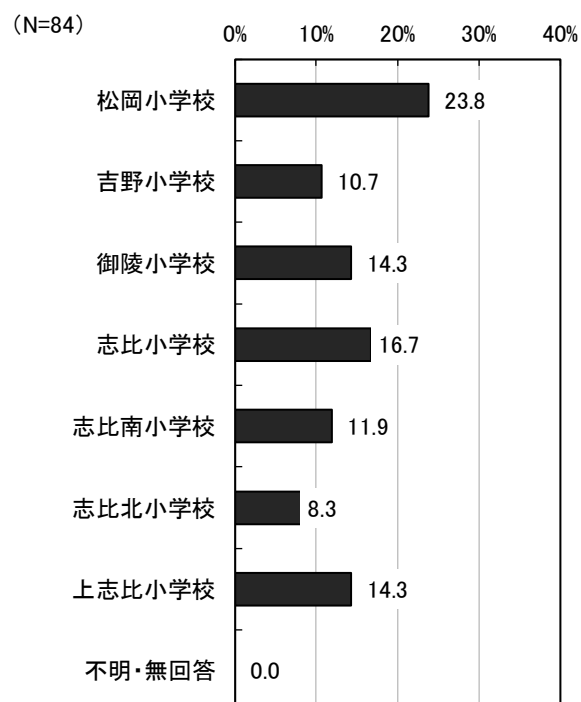
(1) あなたの年齢

年齢についてみると、「50歳以上」が54.8%と最も高くなっています。



(2) あなたが勤務している小学校（1つに○）

勤務している小学校についてみると、「松岡小学校」が23.8%と最も高く、次いで「志比小学校」が16.7%となっています。

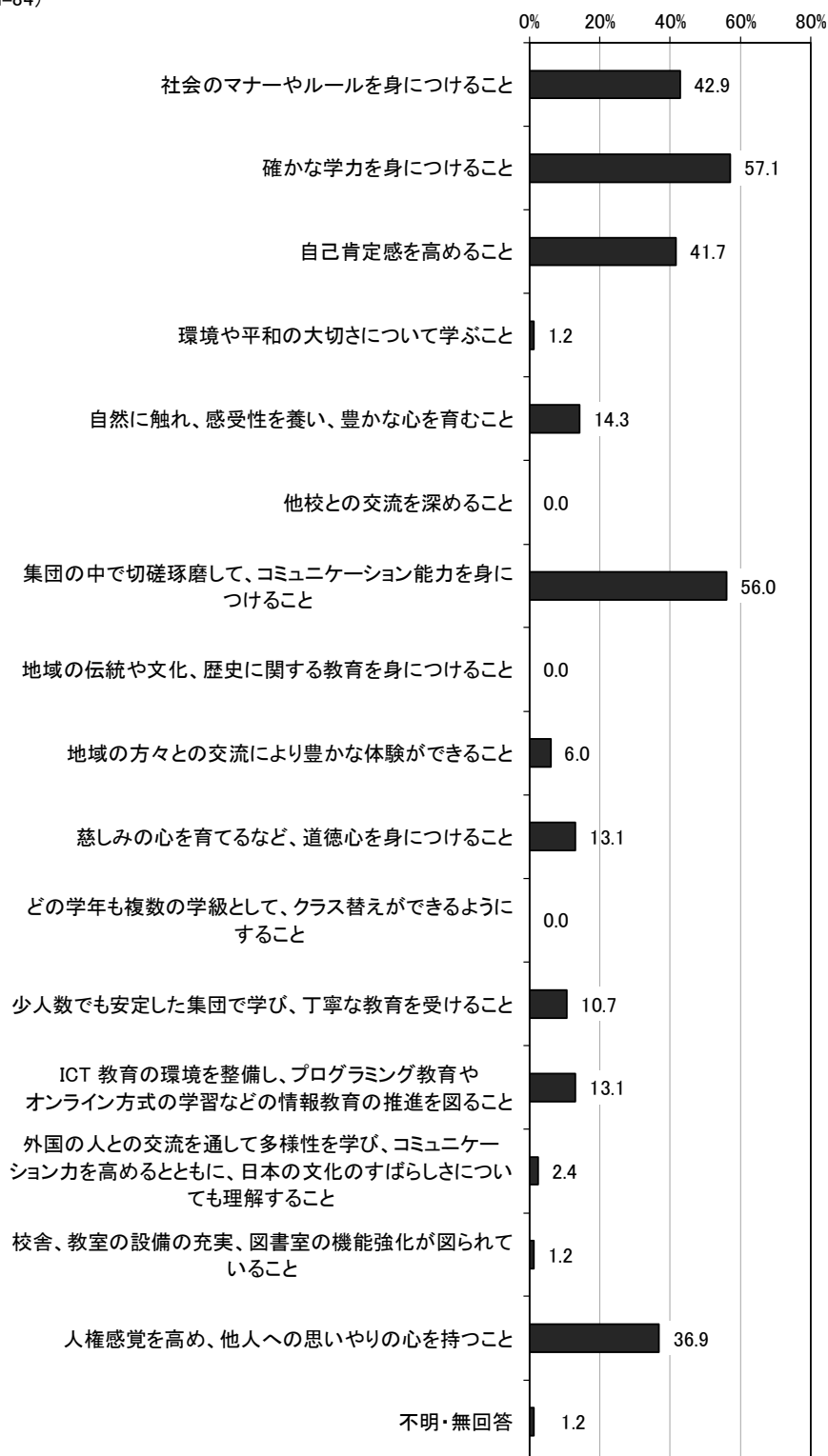


2. 小学校教育について

(1) これからの小学校教育で、特に重要だと思うことは何ですか（3つに〇）

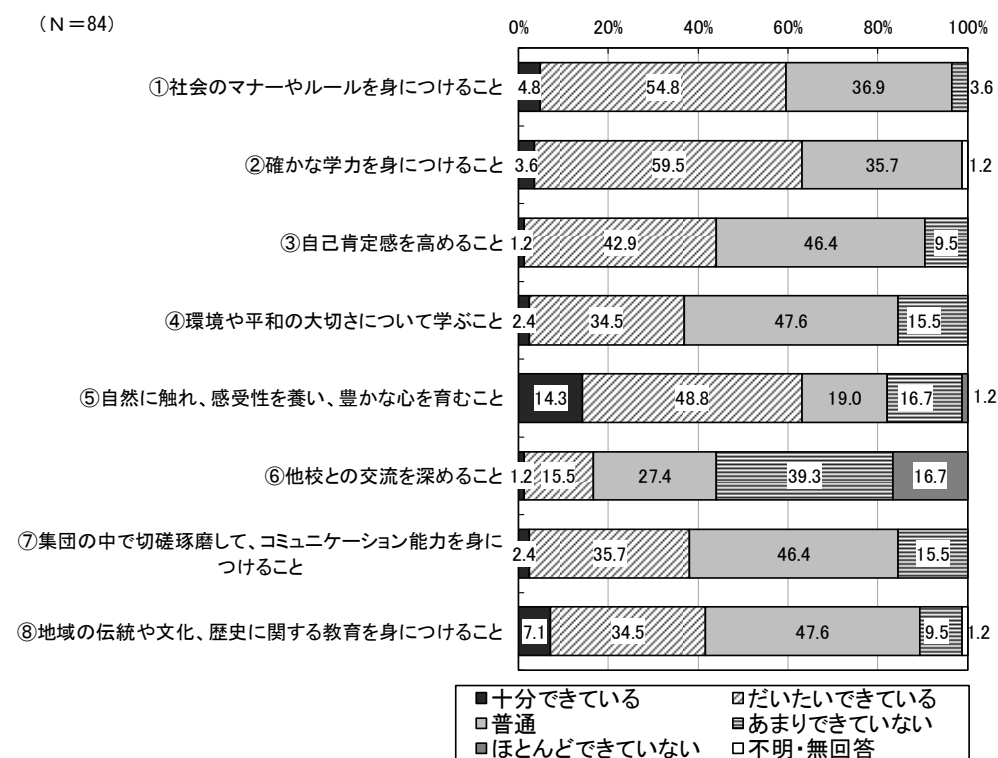
小学校教育で重要だと思うことについてみると、「確かな学力を身につけること」が57.1%と最も高く、次いで「集団の中で切磋琢磨して、コミュニケーション能力を身につけること」が56.0%、「社会のマナーやルールを身につけること」が42.9%となっています。

(N=84)

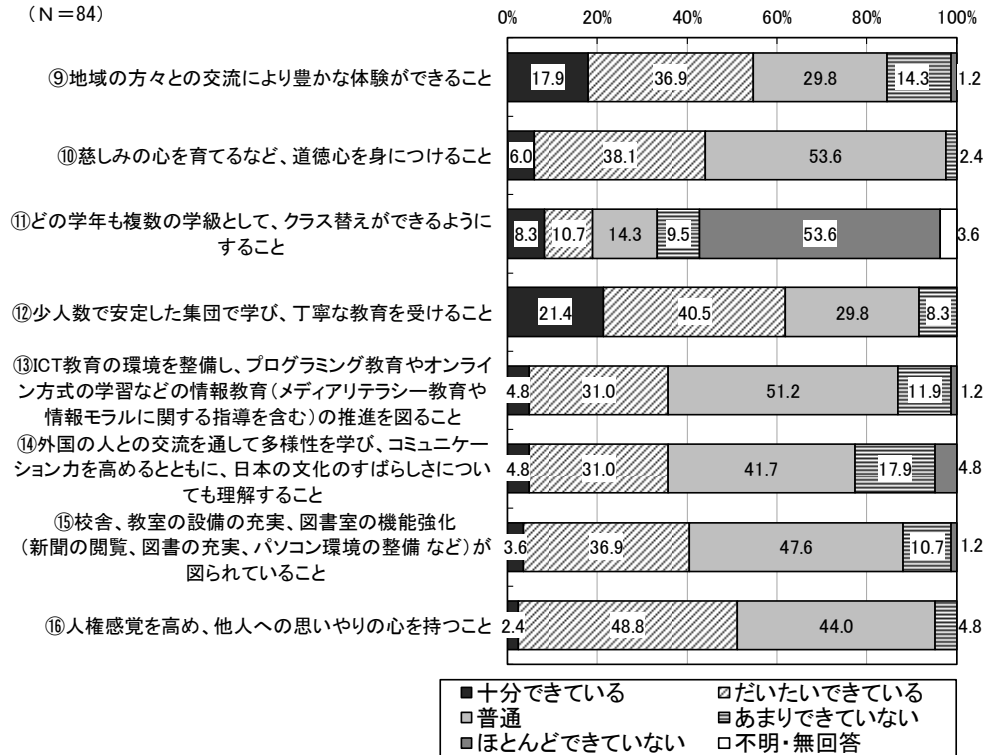


(2) 小学校教育の各項目の達成状況（項目ごとに1つに○）

小学校教育の達成状況についてみると、できている（『十分できている』と『だいたいできている』の合計）では「②確かな学力を身につけること」「⑤自然に触れ、感受性を養い、豊かな心を育むこと」が63.1%、できていない（『あまりできていない』と『ほとんどできていない』の合計）では「⑪どの学年も複数の学級として、クラス替えができるようにすること」が63.1%と高くなっています。

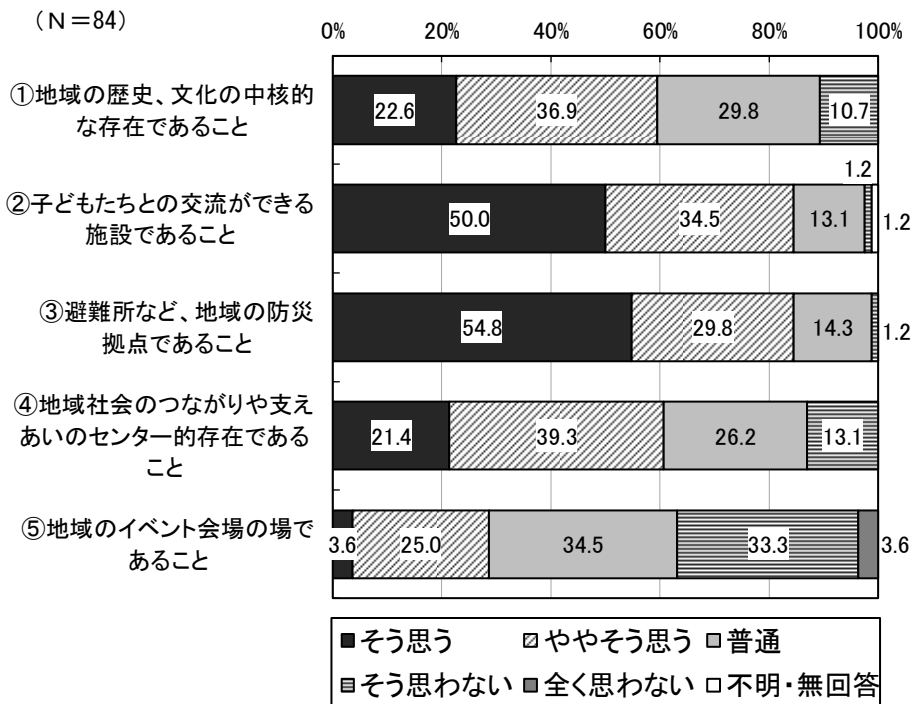


(N=84)



(3) 地域における小学校の役割（項目ごとに1つに〇）

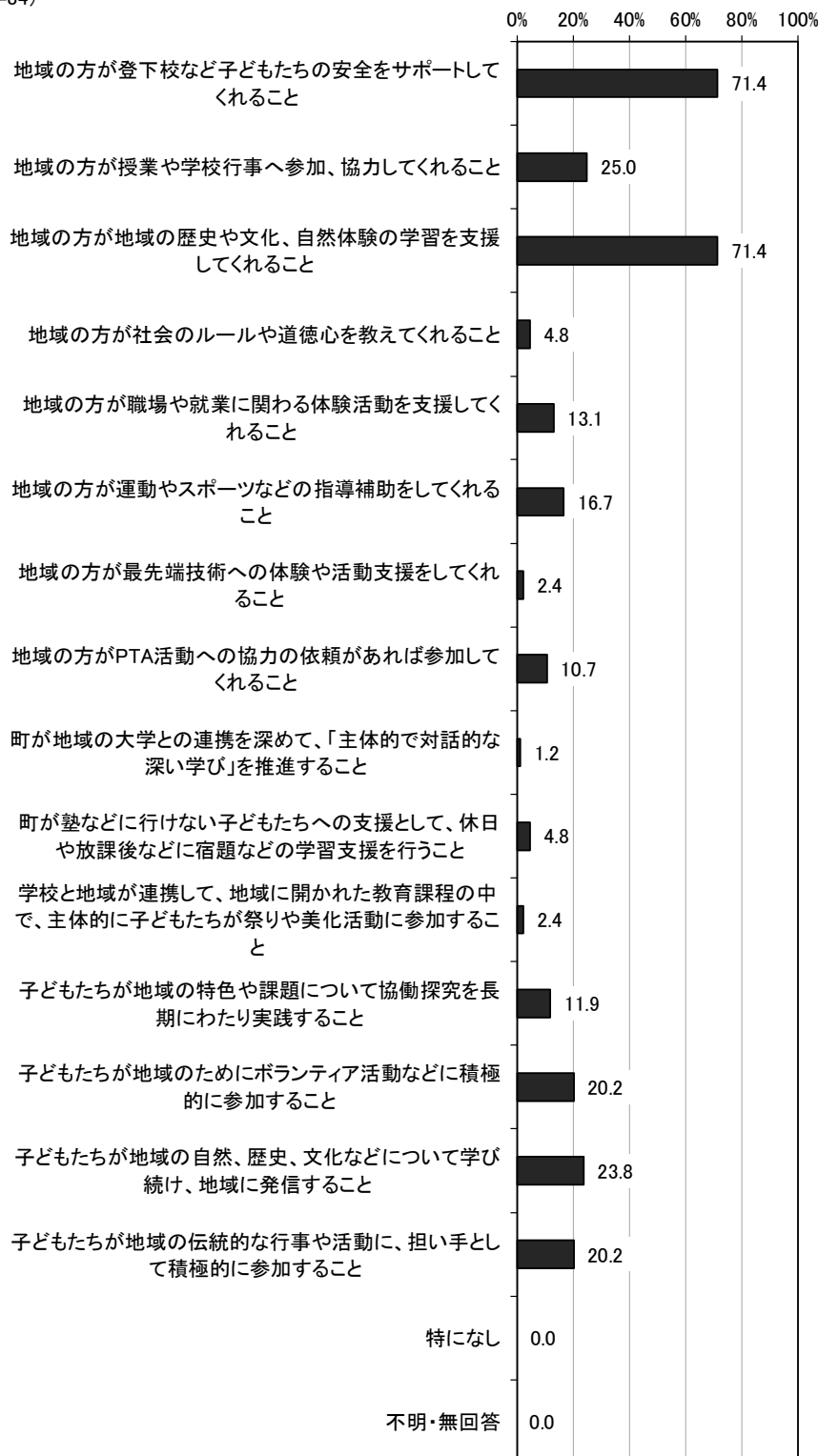
地域における小学校の役割についてみると、そう思う（『そう思う』と『ややそう思う』の合計）では「③避難所など、地域の防災拠点であること」が84.6%、「②子どもたちとの交流ができる施設であること」が84.5%、思わない（『そう思わない』と『全く思わない』の合計）では「⑤地域のイベント会場の場であること」が36.9%と高くなっています。



(4) 地域による児童・学校へのサポートについて期待すること
(あてはまるものすべてに○)

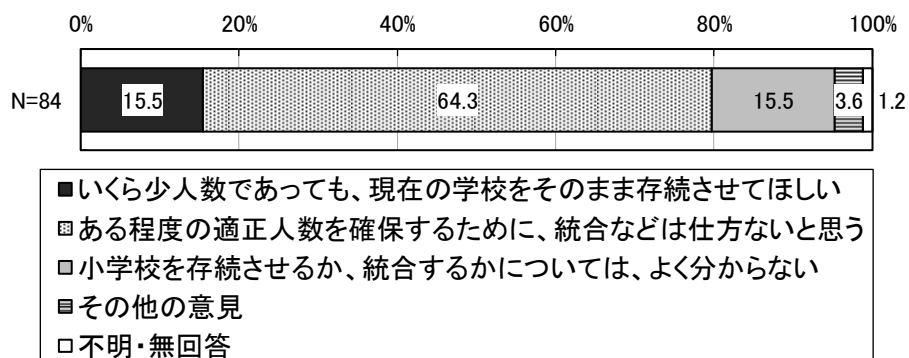
地域による児童・学校へのサポートについて期待することをみると、「地域の方が登下校など子どもたちの安全をサポートしてくれること」「地域の方が地域の歴史や文化、自然体験の学習を支援してくれること」が同率で71.4%と最も高くなっています。

(N=84)



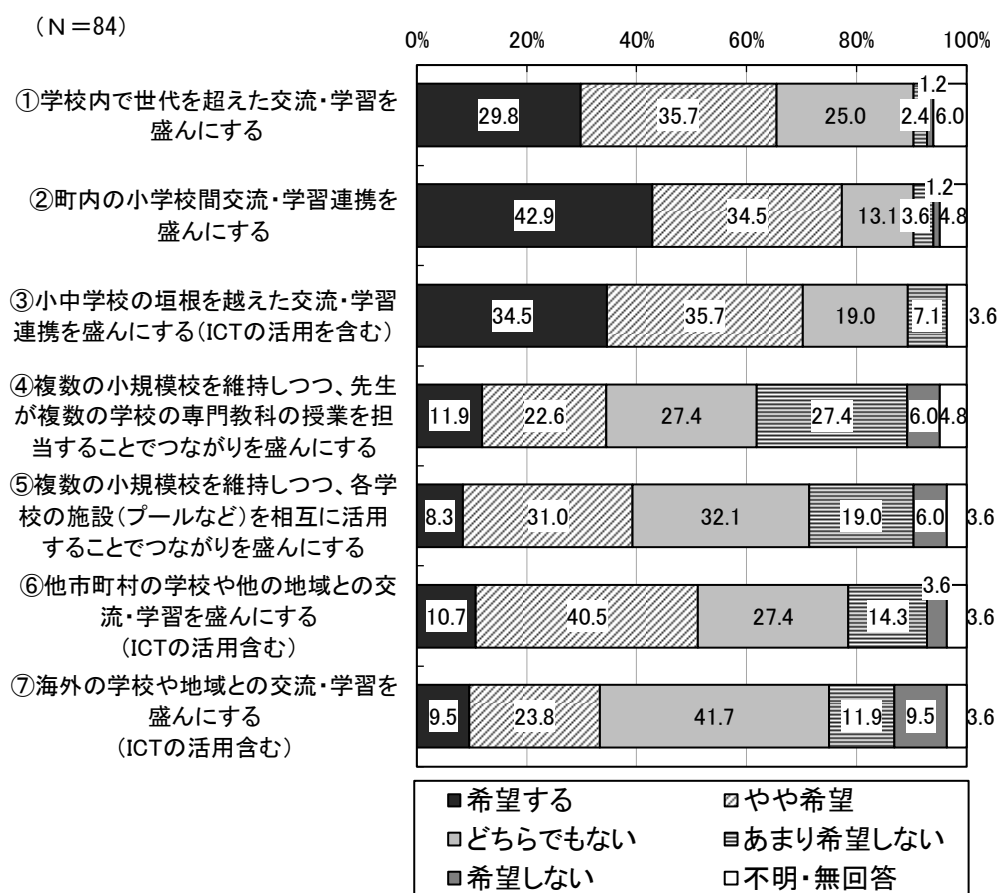
(5) 子どもたちのよりよい成長、発達のためには、一定の人数が必要であることから、廃校や休校による統合などもやむを得ないと思うか、思わないか、ということについて（1つに〇）

廃校や休校による統合などもやむを得ないと思うか、思わないかについてみると、「ある程度の適正人数を確保するために、統合などは仕方ないと思う」が64.3%と最も高く、次いで「いくら少人数であっても、現在の学校をそのまま存続させてほしい」「小学校を存続させるか、統合するかについては、よく分からない」が同率で15.5%となっています。



(6) 将来的に児童数が減少した際に、町の対応として希望すること
(項目ごとに1つに○)

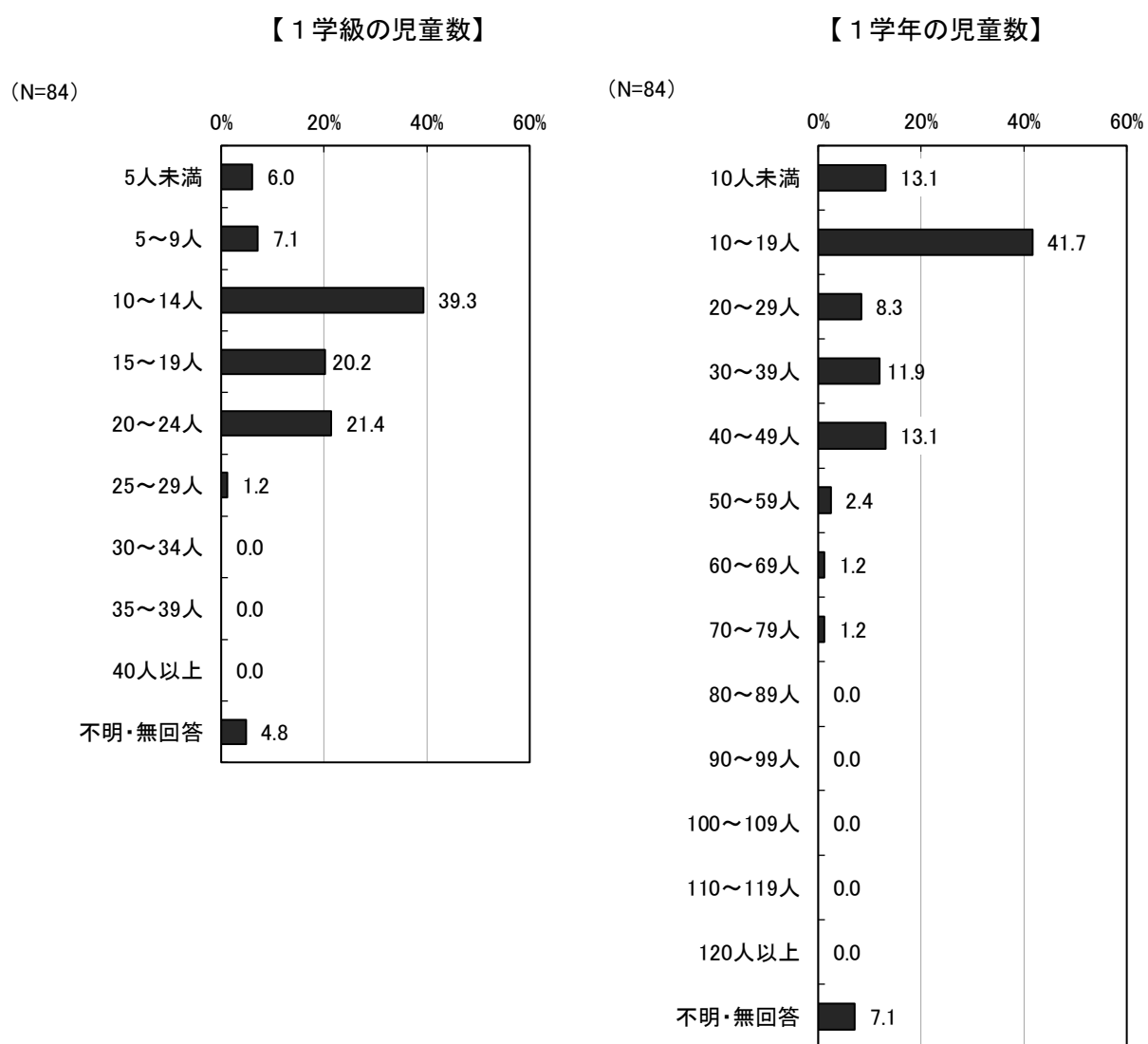
将来的に児童数が減少した際に、町の対応として希望することについてみると、希望する(『希望する』と『やや希望』の合計)では「②町内の小学校間交流・学習連携を盛んにする」が77.4%、「③小中学校の垣根を越えた交流・学習連携を盛んにする(ICTの活用を含む)」が70.2%、希望しない(『あまり希望しない』と『希望しない』の合計)では「④複数の小規模校を維持しつつ、先生が複数の学校の専門教科の授業を担当することでつながりを盛んにする」が33.4%、「⑤複数の小規模校を維持しつつ、各学校の施設(プールなど)を相互に活用することでつながりを盛んにする」が25.0%と高くなっています。



(7) 1学級の児童数・1学年の児童数について、あなたが最低限必要だと思う人数
(数量回答)

最低限必要だと思う人数についてみると、1学級の児童数では、「10～14人」が39.3%と最も高く、次いで「20～24人」が21.4%、「15～19人」が20.2%となっています。また、1学年の児童数では、「10～19人」が41.7%と最も高く、次いで「10人未満」と「40～49人」が同率で13.1%となっています。

■最低限必要だと思う人数

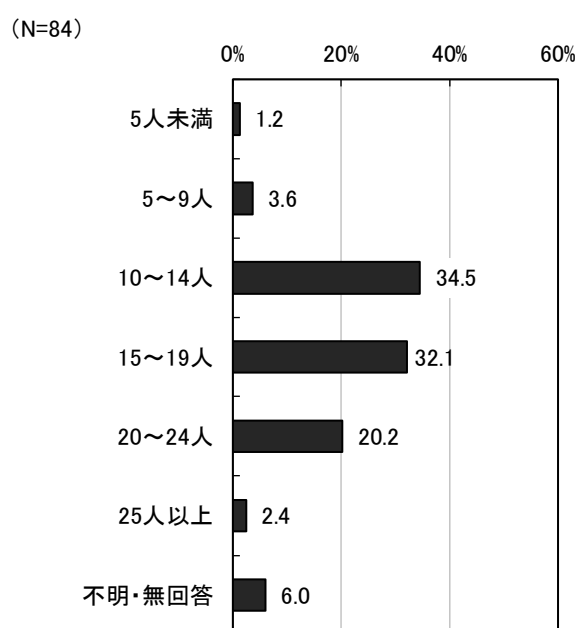


(7) — 1 1学級の児童数・1学年の児童数について、あなたが適正だと思う人数
(数量回答)

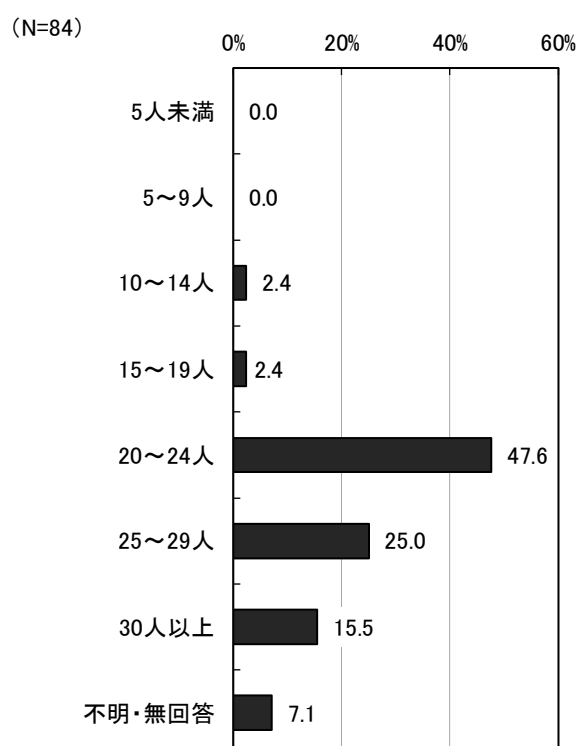
適正だと思う人数についてみると、1学級の児童数(何人～)では、「10～14人」が34.5%、1学級の児童数(～何人)では、「20～24人」が47.6%と最も高くなっています。また、1学年の児童数(何人～)では、「10～19人」が35.7%、1学年の児童数(～何人)では、「20～29人」が26.2%と最も高くなっています。

■適正だと思う人数

【1学級の児童数(何人～)】

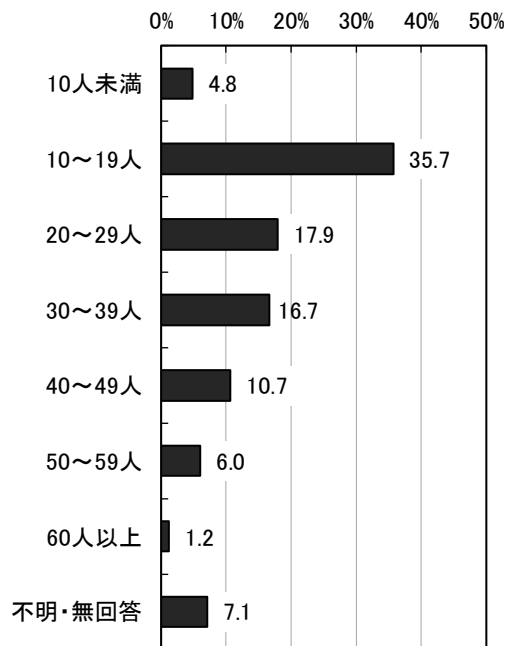


【1学級の児童数(～何人)】



【1学年の児童数（何人～）】

(N=84)



【1学年の児童数（～何人）】

(N=84)

